

第2章 将来都市構造

2-1 将来都市構造の基本方針

都市の構造は、以下の3点により構成されるものとし、都市構造の現状及び構築の基本的な考え方を先に述べた上で、それぞれの整理を行います。

●土地利用構想(面的基本構造)

●都市軸構想(線的基本構造)

●都市拠点構想(点的基本構造)

都市構造の現状

本市は、比較的平坦で、田園や集落が広がる「さと(市中南部)」及び緑豊かな自然が広がる「やま(市北部)」で構成されています。

これらの中では、河川や道路が通っており、道路に関しては、国道256号や主要地方道岐阜美山線等の南北道路及び国道418号や主要地方道関本巣線等の東西道路が市の骨格を成しています。

生活の場に関してみると、幹線道路が交差する交通の要衝において、地域の中心的な集落が形成されています。特に、国道256号と主要地方道関本巣線が交差する市南部では、様々な都市機能が集積し、市街地が形成されています。

都市構造構築の基本的な考え方

都市の現状や将来の発展方向、各地域の役割等を勘案し、以下の考え方に基づいて都市構造を構築します。

1. 「さと」と「やま」の共生・一体化

「さと」と「やま」の均衡ある発展を基本としながら、各々の特性に配慮したまちづくりを進めます。すなわち「さと」では、自然との調和に留意しながら、生活の利便性を高めるものとし、一方の「やま」では、次世代に継承すべき資源の宝庫として、環境保全のまちづくりに努めます。

また、「さと」と「やま」、地域間の一体化を図る観点から、道路や河川等の軸を活用・整備し、機能的・景観的な結びつきの強化に努めます。

2. 交流の促進核と回遊軸の形成

観光・交流の活性化を図るため、「やま」「さと」それぞれの特性や地域資源を活かした交流拠点づくり及びネットワーク化を進めます。

ネットワークに関しては、東海環状自動車道インターチェンジを基点とした道路網の構築を基本に、南北、東西及び環状の交通軸の強化を図ります。また、東海自然歩道や鳥羽川等の自然の軸についても積極的な活用に努めます。

3. 快適・利便な生活拠点づくり

市民の暮らしを支え、個性的な生活文化を継承していくため、各地域の中心的な集落の振興を図ります。

特に、市南部の市街地に関しては、地理的な優位性や、東海環状自動車道インターチェンジの設置効果等を活かしながら、計画的・総合的な整備を図り、機能性・シンボル性の向上に努めます。

4. 3地域の機能の連携・分担

総合力の高い都市を実現するため、上位計画での位置づけ等を考慮しながら、都市全体で都市機能の連携・分担を進めます。

つまり、高富地域では行政・産業・都市近郊居住・福祉・スポーツレクリエーション機能、伊自良地域では文化発信・自然活用型レクリエーション機能、美山地域では工業・自然活用型レクリエーション機能の役割を担うにふさわしいまちづくりを進めます。

高富地域（市街地内）の風景



2-2 土地利用構想

都市機能の強化や自然環境の保全のためには、土地利用計画を立案し、これに基づいて誘導することが必要です。

このため、都市の面的基本構造として「土地利用構想」を示します。ここでは、地形等で結びつきを有するブロック毎の方向性のほか、都市型・自然型を基本とした土地利用ゾーン毎の方向性を整理します。

ブロック毎の方向性

高富地域を中心とした平坦地は「開発・整序ブロック」として位置づけます。当ブロックでは、東海環状自動車道インターチェンジ設置等に伴う宅地需要を計画的に誘導し、秩序ある市街地形成、効率的な土地利用に努めることを基本方向とします。

地形的な制約により、手つかずの自然が豊富に残る市北部は「保全ブロック」として位置づけ、生活環境の向上に資する開発等を除き、原則的に保全していくことを基本方向とします。

最後に、上記の2つのブロックに挟まれ、将来、国道256号・418号・主要地方道岐阜美山線による環状のつながりが形成される中山間地を「整序・保全ブロック」として位置づけます。当ブロックでは、森林の保全を基本としながら、道路整備等に伴う宅地需要について計画的に対応していくことを基本方向とします。なお、その実現化方策として、都市計画区域等、都市計画制度の導入を検討します。

市街地居住ゾーン

「市南部に位置する市街地」は、将来の人口・産業の指標等に基づいて、適正な規模の確保に努めます。

市街地では、住宅地としての利用を主としながら、将来の道路体系の変化に対応した有効な土地利用を進めます。また、住宅、商業及び工業の各用途が調和した機能的で健全な市街地環境の維持・形成に努めます。

田園居住ゾーン

「市南部の平坦地や河川沿いに広がる田園地帯」は、都市近郊農業地域としての役割を担っているため、優良農地の保全・確保に努めます。

また、市内に点在する「集落」に関しては、周辺の自然・景観との調和や、職住近接の形態等に配慮しながら、必要な居住環境整備等に努めます。

自然環境ゾーン

「市中部から北部にかけて広がる森林」は、動植物の生息地であり、様々な公益的機能も担っています。

このため、自然との共存共栄を掲げる中で、当ゾーンでは、自然災害対策等の取り組みとの調和に留意しながら、森林の保全を図ります。

(→次頁に続く)

一方で、自然とふれあい、学べる機能を確保するなど、交流人口の拡大に向けた積極的な活用にも努めます。

2-3 都市軸構想

都市の活力は、交流人口で補っていくことが重要であり、その媒体として、市内外・地域間を結ぶ軸を明確化しておくことが必要です。

このため、都市の線的基本構造として、交通軸と環境軸による「都市軸構想」を示します。

高速交通軸

東海環状自動車道を高速交通軸として位置づけます。この軸は、県域を越えた広域交通を支える重要な路線であり、整備の促進を図ります。

都市根幹交通軸

国道 256 号（南北交通軸）及びこれと交差する主要地方道関本巣線（東西交通軸）を都市根幹交通軸として位置づけます。

これらは、高速交通軸と異なり、比較的近距离である県内各地域との広域交通を支えるものであり、岐阜市等との交流・連携を強化するためにも、整備を促進します。

都市内環状交通軸

都市根幹交通軸と一体となって、各都市拠点を結ぶ環状の路線を、都市内環状交通軸として位置づけます。

地域間の均衡ある発展を目指す上では、市内の道路網の充実が重要であるため、主要地方道岐阜美山線等の整備により、循環性の高い交通体系を構築します。

新市街地形成軸

東海環状自動車道インターチェンジに連絡する国道 256 号バイパスを新市街地形成軸と位置づけます。

この軸は、市街地内の渋滞緩和のみならず、機能性・シンボル性を備えた「新しい山県の顔」の実現に資する軸としての役割が期待されるため、高速交通軸と併せた整備を進めます。

アメニティ軸

鳥羽川、武儀川、伊自良川等の主要な河川は、各都市拠点を結び、潤いのある暮らしの実現に資するアメニティ軸として位置づけます。

なお、鳥羽川に関しては、東海自然歩道とともに広域観光ネットワークを成すシンボリックな軸として位置づけ、美しく、安全・快適に歩ける空間づくりを進めます。

2-4 都市拠点構想

生活、産業等を支援する観点では、都市機能を適切に集約配置し、それらを中心に取り組むことが効率的・効果的と考えられます。

このため、都市の点的基本構造として、まちづくりの中核を明確化した「都市機能拠点構想」を示します。

やまがたシンボル拠点

東海環状自動車道インターチェンジに近接し、国道 256 号バイパス、主要地方道関本巢線、鳥羽川等の市を代表する軸が集中する地域を位置づけます。

当拠点では、まちの玄関口としての交通利便性、市役所等の公共施設の集積、河川への近接性等の恵まれた条件を活かしながら、憩い、交流、情報発信、居住等の様々な機能を備えた総合的な空間整備を進め、定住・交流を牽引する「新たな山県の顔」の実現を目指します。

もてなし交流拠点

旧来より市の商業の中心地としての役割を担ってきた天王通り商店街を含む市街地南部を位置づけます。

当拠点は、地域の日常的なニーズに対応し、また、市内の交流を促進する南の玄関口として、やまがたシンボル拠点とは異なる魅力を備えた空間づくりに努めます。

文化創造・生活拠点

伊自良支所が位置する大門地区一帯を位置づけます。

当拠点は、市西部の暮らしを支える中枢として、市街地の機能との連携のもと、生活利便性の向上に努めます。同時に、文化・芸術施設の集積を活かしたまちづくりを推進し、香り高い文化とふれあい、新文化を創造・発信する拠点としての振興に努めます。

ふるさと産業・生活拠点

市の南部と北部をつなぐ要衝である富永・西武芸地区一帯を位置づけます。

当拠点では、国道 256 号と国道 418 号が交差する交通の要衝としての特性を活かし、バルブ加工等の産業機能と居住機能が集積・調和した生活拠点づくりに努めるほか、市内観光と連携した東の玄関口としての振興を図ります。

山間多機能生活拠点

美山支所が位置する谷合地区一帯を位置づけます。

当拠点は、山間地の暮らしを支える中枢として、日常生活に必要な都市機能の維持・導入に努めます。

また、交通の要衝としての特性や豊かな自然を活かした産業機能、レクリエーション機能の配置を検討するなど、市全体の発展にも寄与するまちづくりに努めます。

水と緑の癒し・交流拠点

伊自良湖、みやまの森、グリーンブラザみやま等の自然活用型レクリエーション地を位置づけます。

これらは、本市の魅力である豊かな自然を PR し、また、その自然とのふれあいの中で、癒しを提供する役割を担うものであり、交通軸・アメニティ軸によるネットワーク化を図りながら、広域的な利用を促します。

複合交流拠点

四国山香りの森公園、大桑城跡及び県立福祉施設が分布する大桑地区一帯を位置づけます。

当拠点は、東海自然歩道等による広域観光ネットワーク上の中核として、自然と歴史・文化が連携した観光・交流拠点の形成を図ります。また、このような良好な環境との関連づけがなされた広域的な福祉・保健の拠点として振興を図ります。

将来都市構造図



■都市拠点

- やまがたシンボル拠点
- もてなし交流拠点
- 文化創造・生活拠点
- ふるさと産業・生活拠点
- 山間多機能生活拠点
- 水と緑の癒し・交流拠点
- 複合交流拠点

■土地利用

- 市街地居住ゾーン
- 田園居住ゾーン
- 自然環境ゾーン
- 開発・整序・保全ブロック区分

■都市軸

- 高速交通軸
- 都市根幹交通軸
- 都市内環状交通軸
- 新市街地形成軸
- アメニティ軸
- 主要な道路

